

カナダ日系人を訪ねて

東京女子大学教授 猿谷 要

熊本二世の大蔵次官

まだ九月上旬だというのに、オタワの朝の空気は思わず身体が引き締まるほど冷たかった。しかしグウスタウンの空は信じられないほど青く澄んでいて、その大空の一角を截り取るように、ブレイス・ベル・カナダが建っている。



トーマス・クニト・シヨ
ヤマさんの
オフィスはそ
の最上階の二
十七階にあつ

「やあ、こんにちは」と気軽に声をかけながら、彼は小柄な姿を私たち夫婦の前に現わした。この調子だとこちらも日本語で話せるのかなと思っていると、彼が使った日本語はその一言だけで、明るくて見晴らしのいい部屋に案内されてからは、すっかり英語に戻ってしまった。

初めはいかにもソツのない能吏という感じを受けたが、それだけでは少数派に属する日系移民の僅か二代目で、大蔵次官にまでなるのは不可能であろう。大蔵大臣が何人か交替しても、シヨヤマさんはずっと次官のポストに座り続けているので、いまやカナダの財政関係では最大の実力者、というのがもっぱらの評判なのである。現にちょうど発刊したばかりの「トゥデイ」という新聞が、写真入りでシヨヤマさんの紹介を載せていた。

「私の両親は熊本県の、それも辺鄙な農村の出身ですね。私はまだ日本へ行ったことはないんですよ」

とおだやかにいって、彼は笑った。望郷の念に駆られているような気配はまったくなかった。おそらくいま頭のなかは、カナダ財政のきりもりで一杯になっていることだろう。

二世でこれほどその国の人になりきっているというのは、やはり見事なものである。日系アメリカ人の場合も二世にはとくにその傾向が強いが、シヨヤマさんもその典型的なタイプといえるようだ。

建築界のチャンピオン

カナダの建築界でいまトップの座にいたレイモンド・モリヤマさんの事務所をトロントに訪ねたのは、雲が低く街の上を蔽って、かすかに雨がばらついている日のことである。時間が少し早く着いてしまったのに、モリヤマさんは一人で仕事をしながら、私たちを待っていてくれた。



入った瞬間に、私たちは驚いた。建物がなんとも風変わりなのだ。ここに迎えてくれたモリヤマさんの話によると、一九二三年に建てられたという古いガレージを買って改築したものだそうで、玄関のまわりの植込みの感じなどは、どこかに日本の香りを漂わせていた。玄関から仕事場への境には足もとに水が流れているだけで、心にくいばかりの空間がそこにはあった。

外から眺めると二階建てだと思っていたその事務所には、なんと八つものフロアが内にできていて、普段は二十四人も

の人が仕事をしているのだという。事務所の内部じたいが、彼のすばらしい作品だといわなければならない。

ところで、私たち夫婦はモリヤマさんにこのみごとに調和のとれた事務所のなかを案内してもらいながら、この人がすっかり好きになってしまった。私もこんなに人なつこくて、渋味があつて、その上魅力的な中年の男性をめぐつたに見たことがない。彼の方も私たちに好意をもってくれたのだろうか、もうほとんど完成したメトロ・トロント・ライブラリーへ私たちを連れていってくれた。

おそらくこの図書館は、新しく大きな話題を提供することだろう。巨大な建物の中心に共通の空間がすっぽりとできていて、

「孤独感をもたせないような、みんなに共通の感情をもたせるような、そんな図書館を作りたいんですよ」という彼の説明が、そっくり生かされているようだった。日本を訪ねたとき、飛驒の合掌造りを見て驚歎し、思わず二日間そのなかで暮ってしまったというモリヤマさんは、こういう大きな仕事のなかでも、白人のカナダ人には考え及ばないような、なにかプラス・アルファの要素をにじみ出させていた。

おそらく彼は、父の生れた国の血潮がいまも自分の身体のかなを流れているのを意識しているのではないだろうか。翌日トヨ・タカタさんに案内されて、やはりモリヤマさんが設計したという日系文化会館を訪れ、林にかこまれるような形で建っているその建物を眺めたとき、私は彼の心のなかの一隅をのぞいたように思った。

平原州の日系社会

ウィニベグでは、私が出ることになっていた日系社会の指導者、ハリー・ヒラヤマさんとヨシマル・アベさんのお二人が、空港までわざわざ出迎えてくれた。ヒラヤマさんは土木建築関係、アベさんは食肉業関係。二人とも六〇歳前後の、一世としては若い世代の人びとである。

この二人が中心になって、『展望』という日本語八頁の月報をマニトバ州で出している。日系移民百年記念号は七月五月十六日に発行され、それが第二十七巻第九号というから、ずいぶん長い歴史をもっているわけだ。ガリ版刷りだが、日系社会の消息が詳細にわたって報道されている。たとえばそのなかに、次のような記事があった(原文のまま)。

「百年祭バンクエットと敬老会

日時 五月二十二日(日)午後六時半
場所 インターナショナル イン

テケット 一人八弗五十仙

七十才以上の方々には招待状を送りました。若し洩れて居たら直ぐ安倍氏迄通知下さい。本年は日系人の百年祭で州政府を始め、市長、オタワより生山大蔵次官も列席されますので、一般二、



左からアベさん、猿谷氏夫人、ヒラヤマさん。